

特42

875



岩見武勇傳

全

654477



銅版
陰入
実録
小説

海松堂

版



而雄角
枝結
桃園之
義蹙

塙團九工門

岩見重太郎





重太郎
劇戰父
兄妹之
仇を報



軍藏
権藏
八左門



岩見重太郎



重太郎

發端 今ハ往昔天

正の頃丹後神戸を爲に於て父の仇を討ち美名を現

ハせし岩見重太郎の生立

を尋ぬるに筑前名島の

城主小早川高景の

臣岩見重左工門

の次男にトシテ父

を軍学の師匠兄も重藏と

呼び妹をおけと云ふ重

太郎

幼少

伯父

薄田方



重太郎十七才の頃同國八幡の宮へ

参詣の帰途或る茶店に

家中の若者七八人に遇へり

若者共兼て重太郎を臆病者

とあふどり散々に悪口嘲弄あし其上

面部へ唾まぎ吐き撒けられ如何に柔和の

重太郎も早勘弁あり難くと太刀揮りかたう

未だ敵を或ハ投け或ハ踏み蹴り散々懲り立帰れり

大工

上へ

前けられ

日々

山川ハ

の行々

遊む暮を

故人々皆

遅漢

遊ぶも

一人も

のあし



岩見重左門

鳴瀬権藏

れいん身うり
出づ錆とや
云ふ可けれ
重太郎ハ夫也
より父に乞ひ
暇を貰ひ
何處を當てと
め定
め
多く武者修業
はと出にけ
り茲に小
早川ハ
嫡子へ
軍学の師
を定めんと



此事忽地評

廣瀬軍藏

大川八左門

判とありければ殿手練を
例されし上新地五百
石に申抱相成りな
然るに先達を散々
重太郎の為めに
殺げ付けられし
若者ともハ遺恨
を含く重太郎を
暗殺せんとなりしが
返つて重太郎のたれに皆々討つ

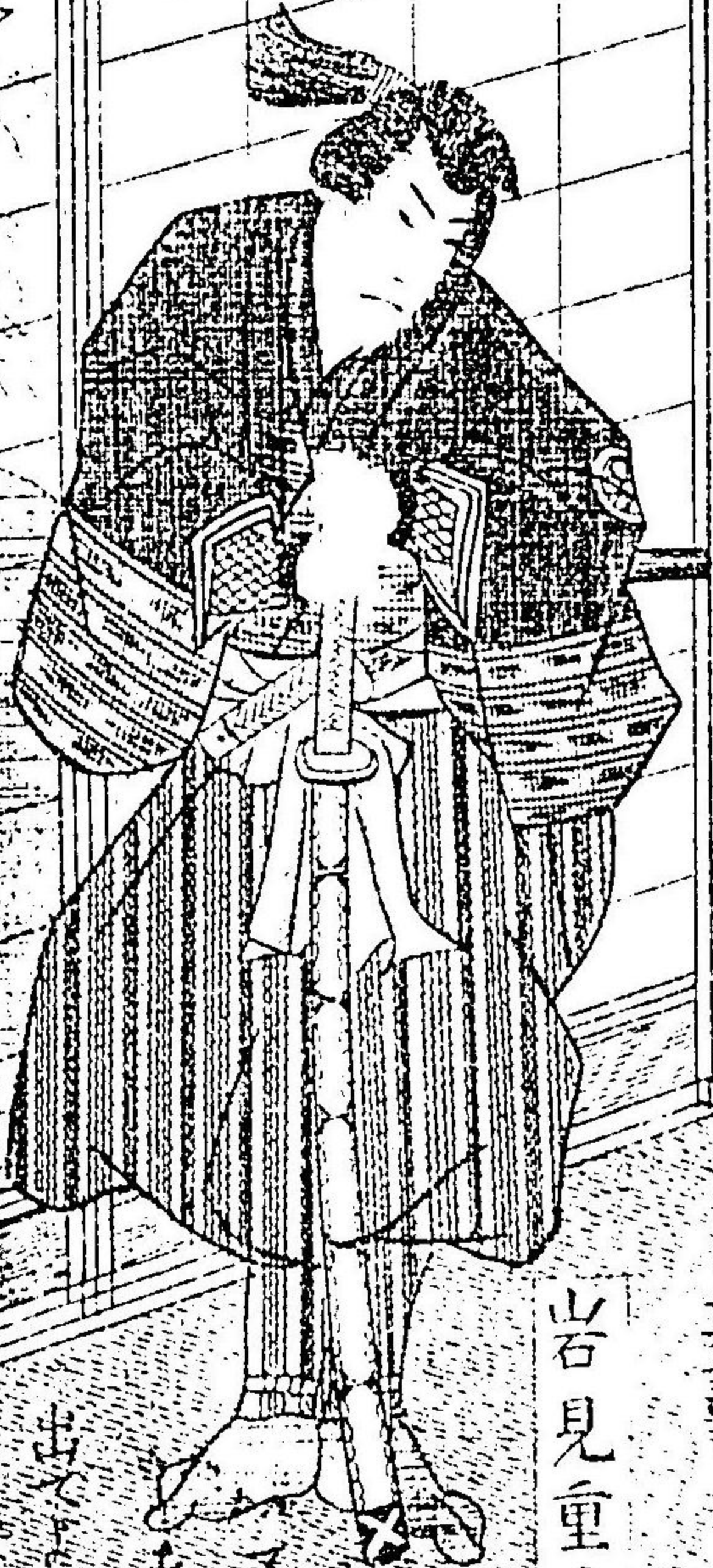
重左門と廣
瀬軍藏の由
へ問答仰付
られしと云
軍藏二言の
まことに言負
念に思ひ大川八左
門鳴瀬権藏を
語り暗殺
るると返
たり重藏
お辻大にた
くといへとも其
詮あやぬが之由
り敵討の願存を

續地 認免届け 廣瀬軍藏



つゞ

諸国修業して関東へ来り聞くに高野弥兵衛と云者各人ある由に付き同家へ尋ねて案内を乞ひ遂に弥兵衛を討ち込ませしれバ弥兵衛大いに感じ重太郎に道場を預け置き其身ハ三浦や至り若村に相方に居続け斗り居り居けり重太郎也



山見重太郎

明細に語り合はれ大に怒りて已れ無威其依に置き可きやと茶に握り齒を喰ふを多し其語をけり

今夜三浦より更なる

弥兵衛の妻にたの

まれ三浦屋へ至り見れハ若村と曰ふ我

実の妹於て

ふれバ大いに

不審かり何故箇

様ある賤しき務をなせやと

問ひたゞされ今ハつむにおし

もあく父を廣瀬等三人の為

に被害せられ母ハ文を苦に病を死去せ

られけねバ兄と共に敵の行末を尋ぬる内

兄ハ又々廣瀬等の為めに返り討に合ひ止を得を箇

ありたり

と團右工門のこ

とまて事

山賊



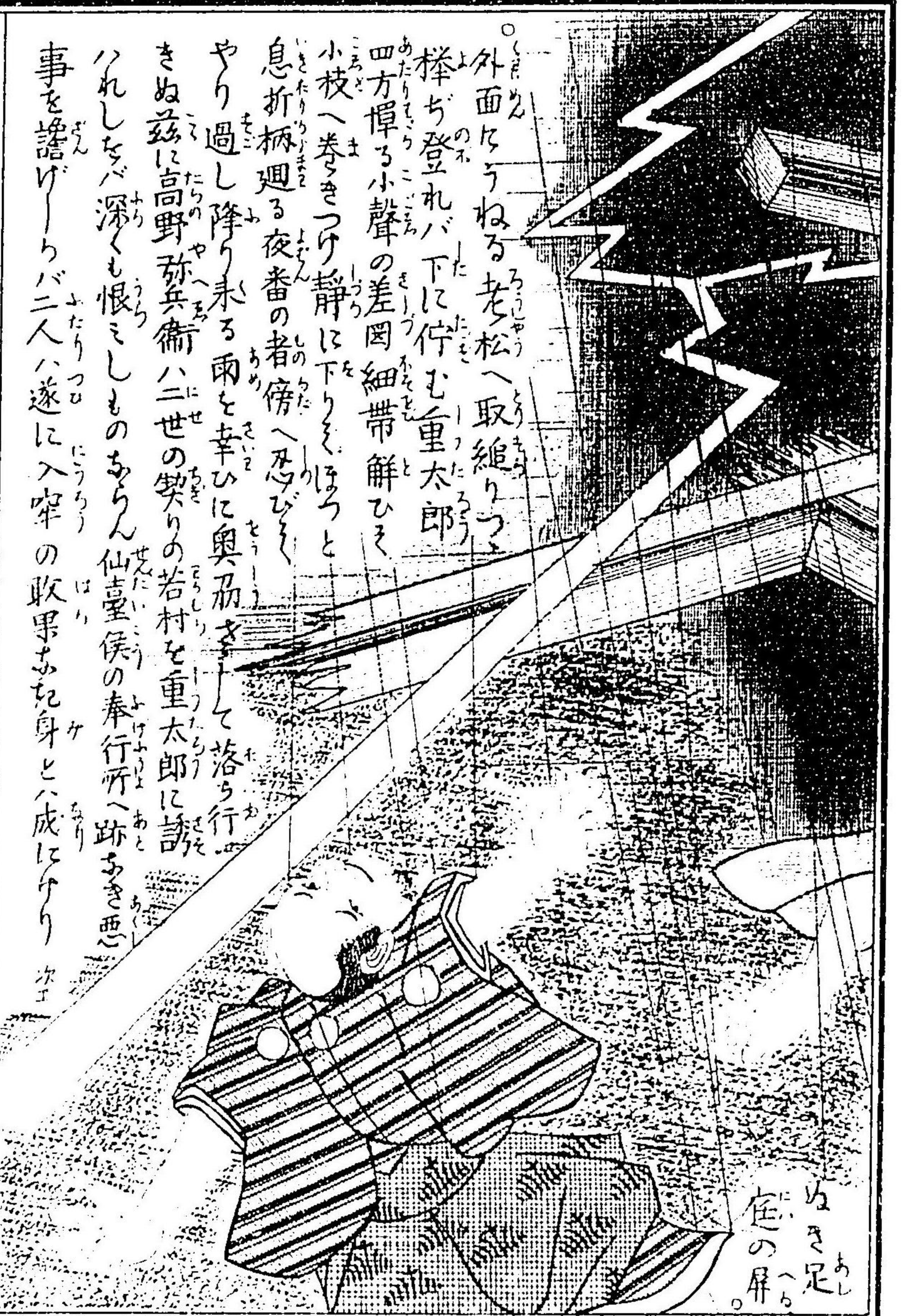


續 花

右見重太郎

頃も秋の末
どめつ
圓生にむ
たぐ虫の
音も草木
も眠むる
丑も時
月も三浦屋
の様子を
うつと若
村がさく

ぬき足
在の屏



外面にうねる老松へ取絶りつ
棒ち登れ下に佇む重太郎
四方憚る小聲の差図細帯解ひま
小枝へ巻ききつ静に下りてほろと
息折極廻る夜番の者傍へ忍びま
やり過し降り来る雨を幸ひに奥初きして落ち行
きぬ茲に高野弥兵衛ハ二世の契りの若村を重太郎に訪
はれしを深くも恨みしものあらん仙臺侯の奉行所へ跡なき悪
事を語りり二人ハ遂に入窄の敗果おち身とハ成にけり



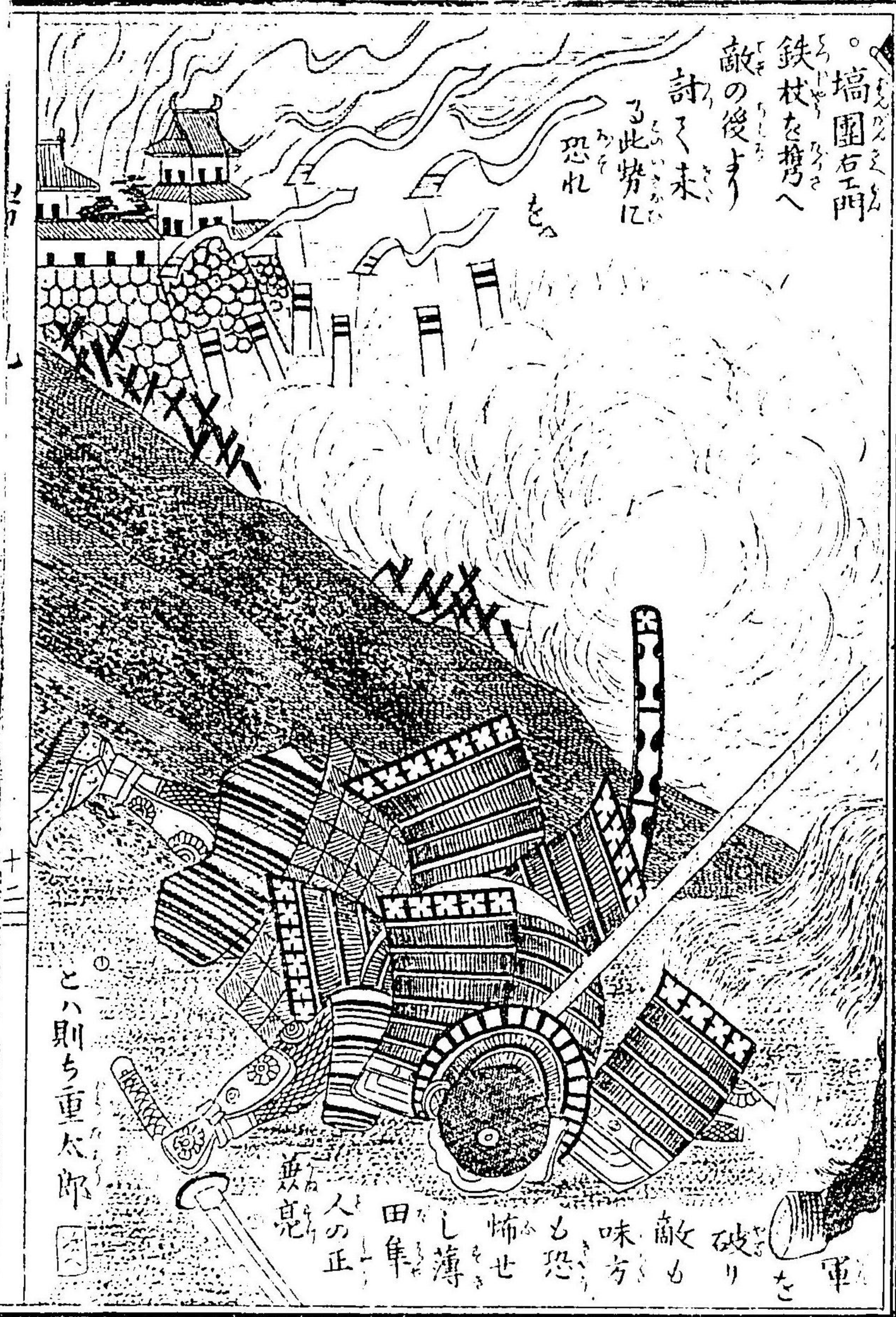
続き 当城主中村或ア
 大夫殿高岳へ御鷹馬
 狩ありとて其御帰城の行
 列を見てあれハ豈圖らん
 美々敷き扮打をましそ
 馬上真先に進み来るハ廣瀬軍藏
 始め三人ちれけ悦喜悦斜ちち直ちに
 願昏を
 認め



此奉行酒井平八郎殿
 へ差出も然るに軍藏の
 津田新左エ門ハ大主の
 怖気に入りは此度
 の事余議あきこと
 に思召何率三
 人を討九
 させよ
 じと
 大倉
 へ三
 百余人を
 付けし助太刀
 をバさきしめける
 愈当日に為りければ

岩見重太郎

軍藏始め
 皆々麗々しく
 粧多し助太刀の
 人数と綺羅屋の
 如く并らば奉行の
 差回に因て相方
 次工



。塙圍右門
鉄杖を携へ
敵の後より
討て未
此勢に
恐れ

と八則ち重大郎

軍を破り味方も恐怖し薄田正人の正

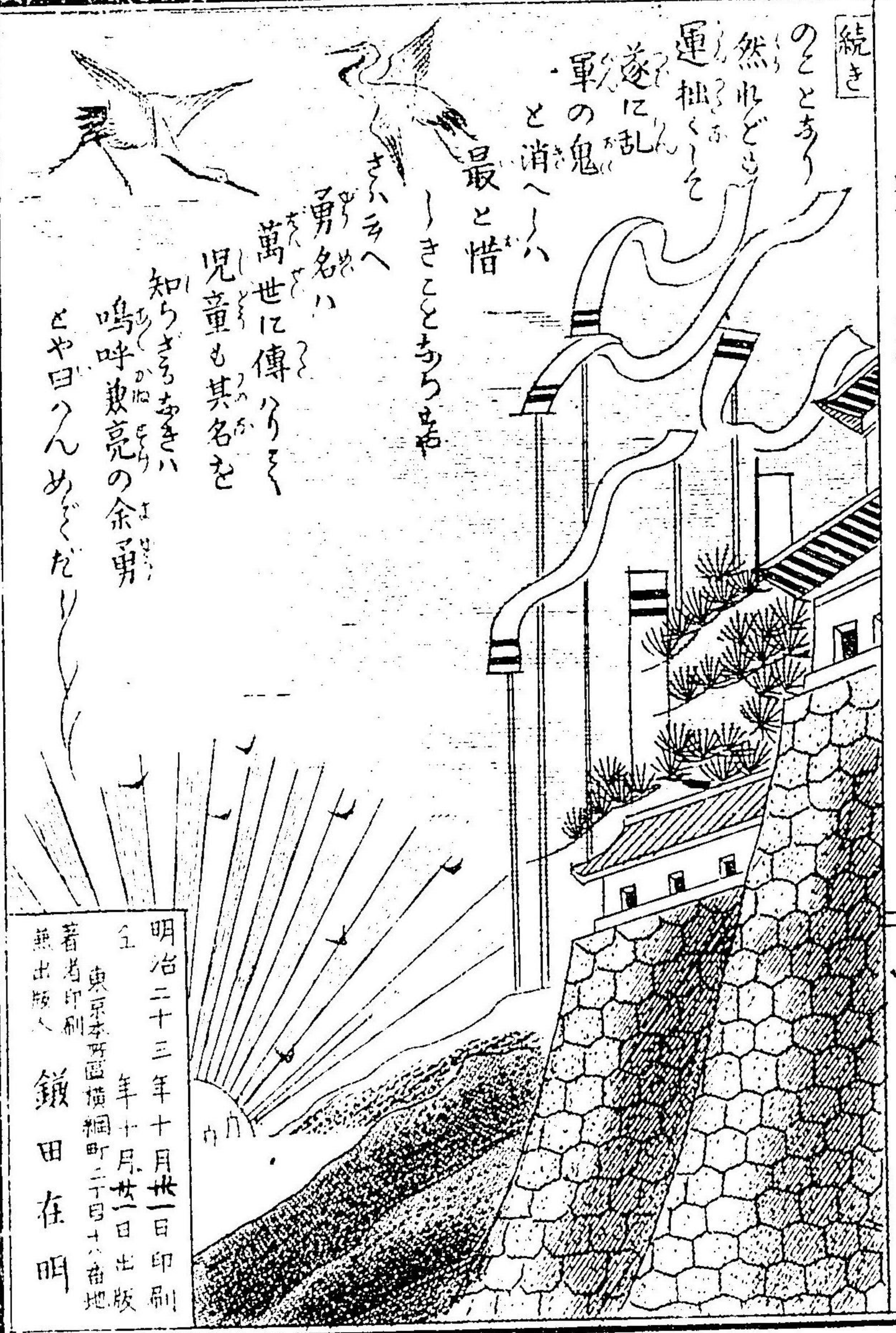


續地 立上れハ三人一度に斬てくる
三人の者今ハ危く見へけ
レハ大倉指揮をぬし
三百余人一度に物係
リとあるを植松藤
平と二
人必
死と
内戦

薄田兼亮

生しうろた蹀々其間に遂に

首を六揚
げたるハ日
覚と云
ふもあ
らあり
後年
大坂冬
御陣の
芳秀
頼公へ
申味方
ありし
方の大將
とあり
屢々東



続き

のとき

然れども

運拙く

遂に乱

軍の鬼

と消へ

最と惜

〜きことありき

勇名ハ

萬世に傳はり

児童も其名を

知らざる者ハ

嗚呼兼亮の余勇

とや曰はんめど

たり

明治二十三年十月廿一日印刷

全

東京市西區横綱町二百四十六番地

著者印刷

兼出版人

鎌田在明

